

2009 年度研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
Research Project: The Modernity and the Studies of Ancient Texts:
the Collapse of the Traditions and their Remaking

実施期間： 2008～2010 年度（第 2 年次）

Term of the Project: 2008-2010 fiscal years (2nd year)

研究代表者： 手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授

Project Leader: Dr. Isaiah (Izaya) TESHIMA, Member of the IIAS Planning Board;

Professor, Graduate School of Theology, Doshisha University

研究目的要旨：

19 世紀から 20 世紀にかけて、ヘブライ語聖書とホメロスの伝統的な著作理解は「科学的」批判の下に大きく変容し、それにより、それぞれテキストの統一性は否定されるようになるが、その近代の古代テキスト批判（モーセ五書の資料説とホメロス問題）には共通したある種の思想的傾向があると U. Cassuto は指摘する。当該プロジェクトは、したがって、近代精神が古典研究に及ぼした影響の特質を考察するべく、ホメロス研究また旧約研究において「伝統」がどのように変化し崩壊していったか、1) テキスト、2) 言語、3) 文脈、において検証し、その近代精神の傾向性を質しながら、古典研究における「科学」と「伝統」の新たな関係構築に努めたい。

研究目的：

近代精神と古典解釈の相互関係を再考する分野横断プロジェクト。地球規模の環境危機が論じられる私たちの時代（21 世紀）、「科学」の概念を客観的に捉えなおすことは、これまでになく切迫した課題となっている。また技術の急速な発達文明間の距離を急激に縮めつつある反面、近代の世俗的精神を形づくった欧米諸国やそれを受け入れた地域と、今も宗教的伝統を諸価値の核とする文明圏との間には、かえって思想の疎通をめぐる困難が深まっている。当該研究は、新時代の文明コミュニケーションとしての古典学の創造を念頭に置きつつ、近代革命期の古典解釈に生じた本質的かつ急激な変化を総合的に理解し、その含意を言語化することにより、欧米近代の知をその最も深い背景から多視点的に反省・評価しようとする人文学の基礎的プロジェクトである。欧米近代の知的変革に迫るひとつの場として古典解釈を取りあげるにあたって、とりわけホメロスおよび旧約聖書研究に生じたテキストへの近接態度の決定的変化はきわめて重要である。これらのテキストの成立過程の説明をめぐることは、19 世紀に「科学」的な研究方法が提案され、それまでの伝統的な認識を根底から覆す様々な仮説と知見とが生み出された。しかし今日、20 世紀後半に拓かれた新たな資料と新たな研究パースペクティブ（History of Interpretation）によって、「人文科学」の前提の再検証が始まりつつある。こうした進行中の反省は、聖書文献学を例に説明するなら、キリスト教文明による研究視座の占有が相対化されたことに与る点が大いなのだが、この変化により、聖書研究においては、「伝統」に対する「合理／非合理」という科学的判断が、ときにパラドキシカルで、ときにパロキアルなものでもあることが認識され始めている。当該研究は、「科学 Wissenschaft」という概念に代表される欧米の古典(古代)研究革命の特質を、文献学的・考古学的・哲学的・社会学的・宗教学的・科学/文明史的に検証することにより、古典解釈という鏡面に映った近代（科学）精神の反射像から、その歴史の実像を見定めようとする人文科学のための努力である。同時に、この努力は、時代の要請に応える新しい古典研究／教育のあり方を模索するものであり、自然科学との対話的連携の枠組み作りを意識しながら、長期的には近代科学の特異性を深く理解するが

ゆえに今日のイノベーションに最もよく適応しうる知的精神の涵養と、人間的未来の展望に資する古典学の再構築を目指す。

Objectives:

From the 19th Century to the beginning of the 20th Century in Europe, the studies of the Hebrew Bible and those of Homer underwent tremendous changes of interpretations respectively by reaching the peak of textual analysis to doubt the unity of authorship and divide the literary traditions into pieces for more coherent ideas. The present project, as inspired by U. Cassuto's insight into parallels in modern criticisms of Homer and the Bible, attempts to inquire the nature of the relationships of the modern scientific mind and the traditions in the studies of the ancient texts, i.e., to review the process of the collapse of traditional understandings in the areas of 1) Language, 2) Text, 3) Context, and redefine the achievements of the so-called "Wissenschaft" age in the light of today's discoveries and perspectives concerning the Bible and Homer.

前年度の研究の概要:

古典研究と近代の関係性を見直しの意義と必要性を考えるための第一回研究会において、久保正彰氏より17世紀の古典学者ヤコブス・ホイエルの先駆的本文批評の問題意識と彼の時代の空気（スピノザ他）との関連性の可能性をお聞きした。また池田裕氏の聖書学と自然（植物）の視点を結びつけることで異文化に属する人々も聖書を遺産として抱える当事者（欧米）に対して対等な発言の立場を得るという発想をお聞きした。第二回研究会では、ロフェ氏のカスト氏の業績に対する極めて俯瞰的にして詳細な評価を学ぶことができた。またティゲイ氏の経験重視のアプローチによって行われたギルガメッシュ編集の研究から、アプリアリとしてではない資料仮説のあり方が提示された。両者の発表は最終報告書に掲載予定である。第三回研究会では、京大に滞在中のケアンズ氏を招待し、アガメムノン王イメージの近代的解釈の思い込みとテキスト細部の相違についてお聞きした。いずれの研究会でも活発な意見交換がなされ、その中で、西洋古典研究と聖書研究の意外な結びつきと同時に、両分野の重要な研究背景の違いなどが明らかにされた。

Achievement:

The inauguration meeting focused upon the significance of paralleling the scholarships of the Bible and the works of Homer. Mr. Masaaki Kubo shared some new appreciation toward Jacobus Goyer's Homeric studies and discussed the significance of his work to the history of textual criticism in Homer. Mr. Yutaka Ikeda also shared his concerns about true universalism in biblical studies and suggested the merit to adopt the viewpoint of nature [e.g. botany] for modern understanding of the biblical text as built on the premise that the Bible was written in the same natural order under which we exist now. In the summer workshop, Mr. Alexander Rofé gave a detailed and comprehensive paper about the contributions of Umberto Cassuto to biblical studies, sharing his personal memories about him, while Mr. Jeffrey Tigay presented the merit of empirical approach to the documentary hypothesis through showing examples of the ancient marks of editorial attempts in the Gilgamesh epics. Both of these papers will appear in the final reports. In the autumn gathering, Mr. Douglas Cairns who was staying in Kyoto University as a guest gave a paper that assessed modern interpretations on the images of King Agamemnon, pointing to gaps between the images and the details of the text. In all of these occasions, the participants were actively involved in exchanging views and opinions with one another in order to forge a positive ground of sharing similarities and dissimilarities in the background and preconditions of the two scholarships.

キーワード: ヘブライ語聖書、ホメロス問題、高等批評、近代精神

Key Word: Hebrew Bible, Homeric Question, Higher Criticism, Modernity

2009年度の研究計画・方法:

2009年度は、古典言語の理解と近代主義の関係を考えることを一つの主眼に置く。その点で、時代の哲学的知見と古典解釈の相互関係を切り口に、ホメロス・テキストの近代的受容について、また古典ユダヤ教資料に表れるヘブライ語文法理解の状況について、また時代精神が及ぼす言語理解への影響の事例（ストア派）などから、近代と古典研究の関係を考えていく予定。

2009年度の研究会開催予定:

2009年4月17日(金)-18(土)に Malcolm Davies (Dr.), Fellow and Tutor in Classics at St. John's College, University of Oxford を迎えてワークショップ開催予定。

村岡崇光氏とのワークショップは、2009年10月下旬(20-24日?)に開催する予定。

参加研究者リスト: 15名(◎研究代表者)

氏名	職名等
◎手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
池田 潤	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
池田 裕	筑波大学名誉教授
伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
内田 次信	大阪大学大学院文学研究科教授
石川 立	同志社大学大学院神学研究科教授
佐野 好則	国際基督教大学教養学部上級准教授
新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
竹内 裕	熊本大学文学部准教授
西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
広川 直幸	京都大学文学部非常勤講師
安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境学研究科教授
山田 重郎	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教

話題提供者リスト:

Malcolm Davies (Dr.), Fellow and Tutor in Classics at St. John's College, University of Oxford

村岡 崇光 ライデン大学名誉教授

神崎 繁 専修大学文学部教授

他1名海外より西洋古典研究者(Bob Fowler氏を含む複数と交渉中)。

研究成果報告書: 研究成果報告書は2012年3月出版予定

担当: 尾池所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2008年度第1回研究会プログラム

開催日時：2008年 5月23日（金） 14：00～17：30
5月24日（土） 9：30～12：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：中川 久定 副所長

出席者：（13人）

研究代表者	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者 （10人）	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
	池田 潤	筑波大学人文社会科学研究科准教授
	** 池田 裕	筑波大学名誉教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
	内田 次信	大阪大学大学院文学研究科 教授
	佐野 好則	国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科上級准教授
	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	広川 直幸	京都大学文学部非常勤講師
	山田 重郎	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	中川 久定	国際高等研究所副所長

**：スピーカー

話題提供者 久保 正彰 日本学士院長
(ゲストスピーカー)
(1人)

プログラム

5月23日(金)

14:00 研究会〔セミナー1〕

オリエンテーション

15:00～17:30 講演及びディスカッション

話題提供者：久保 正彰 日本学士院長

演題「ヤコブス・ホイエル（1651-1689）の跡を訪ねて」

5月24日（土）

9:30 研究会〔セミナー1〕

講演及びディスカッション

話題提供者：池田 裕 筑波大学名誉教授／中近東文化センター学術局長

演題「人と聖書と自然」

11:30～12:30 打合せほか

配布資料（公開不可）

・ 久保 正彰「ヤコブス・ホイエル（1651-1689）の跡を訪ねて」

ほか

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2008年度第2回研究会プログラム

開催日時：2008年 8月5日（火） 14：30～17：30
8月6日（水） 10：00～17：30
8月7日（木） 10：00～17：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：中川 久定 副所長

出席者：（19人うち外国人2人）

研究代表者 **	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者 **	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
（16人）	池田 潤	筑波大学人文社会科学研究科准教授
	池田 裕	筑波大学名誉教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
**	内田 次信	大阪大学大学院文学研究科教授
	新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
**	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
**	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境研究科教授
**	山田 重郎	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教
	中川 久定	国際高等研究所副所長
	北村 徹	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	津田 一夫	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	平岡 光太郎	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	森本 恵美	関西大学大学院文学研究科大学院生

**：スピーカー

話題提供者 Alexander Rofé
(ゲストスピーカー) Professor Emeritus of Hebrew University
(2人) Jeffrey H. Tigay
A. M. Ellis Professor of Hebrew and Semitic Languages and Literatures
Department of Near Eastern Languages and Civilizations
University of Pennsylvania

A Workshop on
“Authorships and Textual Adaptations: the Juggling of Spoken Words and Written Letters in
the Studies of the Bible and the Homer”
August, 5-7, 2008 at IAS

8/5(Tue)

Orientation Meeting :PM2:30-5:00 (tentatively): Moderator: Yamada, Shigeo:

1. Introduction to the Project and the Workshop (30min.):by Teshima, Isaiah,
2. Self-Introduction Talk on Academic background and interest: by Prof. Tigay, Jeffrey (30min-40min): that includes autobiographical information on his teachers, the development of his own academic interests, and reflections on now and then in the academic state of biblical studies.
3. “Self-Introduction Talk on Academic background and interest”: by Prof. Rofé, Alexander (30min-40min): the same
4. Q&A (English/Japanese) on the Schedule:
The Reception dinner at IAS beginning at 5:00PM and at 7:00PM moving to the Hotel by bus.

8/6(Wed.)

Session1:AM10:00-PM12:00: Moderator: Anzai, Makoto

1. Takeuchi, Yu (30min): “Hebrew Bible as Literature: Robert Alter's Case”:
Comment: Shinmen, Mitsugu (10min.)
2. Uchida, Tsugunobu(30min): ” Ancient Homeric Criticism and Heracleitos' Homeric Allegories”:
Comment: Ysumura, Noriko(10min.)

General Discussions(English/Japanese)

Lunch/Rest PM12:00 and/or Excursion (Japanese Garden) and/or Tea break

Session 2:PM2:30-5:30(latest6:00): Moderator: Ikeda, Jun

1. Rofé, Alexander: “Umberto Cassuto and the Higher Criticism” (90min and more)
Comment: Teshima, Isaiah (total:20min)

General Discussions (English/Japanese)

8/7 (Thr.)

Session 3: AM10:00-PM12:00: Moderator: Uchida, Tsugunobu

1. Nishimura, Yoshiko (30min): "Milman Parry's Legacy"
Comment: Takeuchi, Yu(10min)
2. Anzai, Makoto (30min): " *Ilias*, 2.528-30, to be deleted"
Comment: Ito, Gengo(10min.)

General Discussions (English/Japanese)

Lunch/Rest and Teabreak:PM12:00-2:00

Session 4: PM2:00-5:30(latest6:00): Moderator: Ikeda, Yutaka

1. Yamada, Shigeo: "Mesopotamian Royal Genealogical Lists and the Narrative Expansion of the Bible: A Reflection on the Assyrian King List Tradition" (30min)
2. Tigay, Jeffrey: "The Documentary Hypothesis and Ancient Near East Discoveries" (90min)
Comment: Ikeda, Jun (20min)

General Discussions (English/Japanese)

Closing remarks: Rofé, Alexander, Tigay, Jeffrey, and Ikeda, Yutaka (Each 10min)

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2008年度第3回研究会プログラム

開催日時：2008年 11月 28日（金） 14：00～17：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：中川 久定 副所長

出席者：（17人）

研究代表者	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
（15人）	池田 裕	筑波大学名誉教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
	内田 次信	大阪大学大学院文学研究科教授
	佐野 好則	国際基督教大学教養学部上級准教授
	新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境研究科教授
**	渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教
	中川 久定	国際高等研究所副所長
	中務 哲郎	京都大学大学院文学研究科教授
	加藤 哲平	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	平岡 光太郎	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	堀川 宏	京都大学大学院文学研究科大学院生

**：スピーカー

話題提供者 Douglas. L. CAIRNS
(ゲストスピーカー) Professor of Classics, School of History, Classics, and Archaeology,
(1人) University of Edinburgh

プログラム

11月28日(金)

14:00 研究会〔セミナー1〕

開会の辞、発表者の紹介

14:20 話題提供者：渡辺 浩司 大阪大学大学院文学研究科助教

演題「アリストテレスとホメロス問題」

15:50 休憩

16:00～17:30

話題提供者：Douglas. L. CAIRNS

Professor of Classics, School of History, Classics, and Archaeology,

University of Edinburgh

演題 “Conflict and Community in the Iliad”

配布資料（公開不可）

- ・ D. Cairns, IAS Seminar, 2008 November 2008
- ・ 渡辺 浩司「アリストテレスとホメロス問題」

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2009年度第1回研究会（通算第4回）プログラム

開催日時：2009年 4月17日（金） 14：00～17：30
4月18日（土） 9：30～12：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（15人）

研究代表者	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者 （13人）	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
	池田 潤	筑波大学人文社会科学研究科教授
	池田 裕	筑波大学名誉教授
	石川 立	同志社大学大学院神学研究科教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
	内田 次信	大阪大学大学院文学研究科教授
	佐野 好則	国際基督教大学教養学部上級准教授
**	新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境研究科教授
	渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教
	加藤 哲平	同志社大学大学院神学研究科大学院生

**：スピーカー

話題提供者 Malcolm Davies
(ゲストスピーカー) Fellow and Tutor in Classics at St. John's College, University of Oxford
(1人)

プログラム

4月17日(金)

14:00~17:30 研究会〔セミナー1〕

テキスト解釈および受容研究の方法論をめぐって

講演及びディスカッション

Mitsugu Shinmen, "The AM HA AREZ Question and Jewish-Christian Dialogue"

Malcolm Davies, 'Folk-tale vestiges in the second half of the Odyssey'.

respondent: Noriko Yasumura

respondent: Yutaka Ikeda

4月18日(土)

9:30~11:30 研究会〔セミナー1〕

古典テキストの受容・翻案をめぐって

講演及びディスカッション

Malcolm Davies, "Charles James Fox and Heracles in Homer".

respondent: Yoshinori Sano

respondent: Jun Ikeda

11:30~12:30 打ち合わせほか

配布資料(公開不可)

・新免 貢 "The AM HA AREZ Question and Jewish-Christian Dialogue"

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2009年度第2回研究会（通算第5回）プログラム

開催日時：2009年 10月23日（金）14：30～17：30
10月24日（土）10：00～16：00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（22人）

研究代表者	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
（18人）	** 池田 潤	筑波大学人文社会科学研究科教授
	石川 立	同志社大学大学院神学研究科教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
	内田 次信	大阪大学大学院文学研究科教授
	佐野 好則	国際基督教大学教養学部上級准教授
	新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境研究科教授
	山田 重郎	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教
	高木 久夫	明治学院大学教養教育センター准教授
	武藤 慎一	大東文化大学文学部准教授
	勝村 弘也	神戸松蔭女子学院大学総合文芸学科教授
	加藤 哲平	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	辻 圭秋	同志社大学大学院神学研究科大学院生
	平岡 光太郎	同志社大学大学院神学研究科大学院生

**：スピーカー

話題提供者	神崎 繁	専修大学文学部教授
（ゲストスピーカー）	桜井 直文	明治大学法学部教授
（3人）	村岡 崇光	ライデン大学名誉教授

プログラム

10月23日(金)

- 14:30 プロジェクトの趣旨説明(手島勲矢)と出席者の自己紹介
14:50 話題提供者: 神崎 繁 専修大学文学部教授
演題「命令と勧告: 道徳的発達と言語行為の相関について」
15:50 休憩
16:00 話題提供者: 桜井 直文 明治大学法学部教授
演題「スピノザとマイエルにおける文法への関心」
17:00~17:30 討論(コメンテータ: 内田次信)

10月24日(土)

- 10:00 話題提供者: 村岡 崇光 ライデン大学名誉教授
演題「日本人として聖書語学にかかわって来た途上人」
10:30 話題提供者: 池田 潤 筑波大学人文社会科学部教授
演題「近代言語学とヘブライ語研究」
11:30 討論(コメンテータ: 村岡崇光)
12:00 昼食
13:00 話題提供者: 村岡 崇光 ライデン大学名誉教授
演題「前近代のユダヤ人学者からヘブライ語学について
学ぶところがあるだろうか?」
14:00 討論(コメンテータ: 池田潤)
15:00~16:00 総括討論: 古典語研究と近代(司会: 手島勲矢)

国際高等研究所
研究プロジェクト「近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造」
2009年度第3回研究会（通算第6回）プログラム

開催日時：2009年 11月27日（金）14：00～17：30
11月28日（土）10：00～16：30

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：手島 勲矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（15人）

研究代表者	手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
参加研究者 **	安西 眞	北海道大学大学院文学研究科教授
（12人）	池田 潤	筑波大学人文社会科学研究科教授
	池田 裕	筑波大学名誉教授
	伊藤 玄吾	同志社大学言語文化教育研究センター助教
	佐野 好則	国際基督教大学教養学部上級准教授
	新免 貢	宮城学院女子大学学芸学部教授
	竹内 裕	熊本大学文学部准教授
	西村 賀子	和歌山県立医科大学保健看護学部教授
	武藤 慎一	大東文化大学文学部准教授
	安村 典子	金沢大学文学部・大学院人間社会環境研究科教授
	渡辺 浩司	大阪大学大学院文学研究科助教
	小堀 馨子	成城大学非常勤講師

**：スピーカー

話題提供者 Robert L. Fowler Professor, Faculty of Arts, University of Bristol
(ゲストスピーカー) 後藤 敏文 東北大学大学院文学研究科教授
(2人)

プログラム

11月27日(金)

14:00 報告書の作成に向けての相談会

司会：池田 潤、佐野 好則

提案者：竹内 祐、西村 賀子

15:00 休憩

15:10 司会：山田 重郎

話題提供者：後藤 敏文 東北大学大学院文学研究科教授

演題「文献研究と文法研究－ヘシオドス『神統記』に現れる

elephairomai の解釈を例として」

コメンテーター(1人10分)：池田 潤、渡辺 浩司、伊藤 玄吾

17:10～17:30 全体討論

11月28日(土)

10:00 司会：佐野好則

話題提供者：安西 眞 北海道大学大学院文学研究科教授

演題「ホメロス研究における分析論とヘシオドス『農と暦』の

いわゆる 5時代の説話について」

11:00 休憩

11:20 司会：安西 眞

話題提供者：Robert L. Fowler Professor, Faculty of Arts, University of Bristol

演題 “Self-introduction, and my view on "Classical Study Today" ”

11:50 昼食

13:15 司会：安村典子

話題提供者：Robert L. Fowler Professor, Faculty of Arts, University of Bristol

演題 “Homer and the Epic Tradition”

14:45 休憩

15:00～16:00 全体討論(司会：手島勲矢)